

論文番号 226

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Prevalence of alcohol problems among elderly patients in a university hospital

大学病院の高齢患者におけるアルコール関連問題の頻度

執筆者

Ganry-O, Joly-JP, Queval-MP, Dubreuil-A

掲載誌(番号又は発行年月日)

Addiction. (2000); 95(1): 107-113

キーワード

高齢者、入院患者、アルコール中毒

要旨

アルコール中毒患者は一般の集団よりも病院に入院中の人々に多く見られる。フランスでは人口に占める高齢者の割合が増加している中で、高齢者のアルコール消費量やアルコール中毒者の割合に関するデータを得ることは重要である。また、高齢者入院患者のうち、どの程度の割合の人がアルコールに関連した問題を抱えているかを知ることは重要である。この研究の目的は、大学病院に入院中の高齢者の集団においてアルコール中毒者の割合を調査し、アルコールに関連した疾病の割合を調査することである。

1998年5月の無作為に選択した日に、フランスのある病院で調査を実施した。65歳以上のすべての入院患者に対して調査を行った。インタビューに応じた人にはアルコールに関連した問題をスクリーニングするためにCAGE質問紙を実施した。CAGE質問紙には、(1) 今までにアルコールを断つべきだと思ったことがあるか?、(2) 飲酒に関して他人に文句を言われたことがあるか?、(3) 飲酒について罪の意識を感じたことがあるか?、(4) 朝、起きたときに酒を飲んだことがあるか?、といった飲酒に関する4つの質問が含まれている。また別の調査票で、年齢、性別、学歴、婚姻、家族の収入、職歴などについて調査した。その他、日常のアルコール消費の量、頻度、パターンについても調査した。

65歳以上の患者612人のうち、205人(33.6%)が除外規定(痴呆、終末期患者など)に当てはまり、調査から除外された。また、37人(6%)が調査に応じなかった。

データは370人から得ることが出来た。年齢の中央値は79歳であった。54%の人がアルコール摂取がなく、9%の人がCAGE質問紙で陽性の結果が出た。CAGE質問紙で陽性の結果が出た人は女性よりも男性に多かった(男性:17%、女性:2.5%)。アルコール関連疾患患者の割合は7%であった。社会経済的に高い地位の人の割合や離婚率はアルコール消費量の増加と有意な関係が認められた。